

平成 27 年 4 月 14 日現在

機関番号：82201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520199

研究課題名(和文)厚生芸術の基礎研究

研究課題名(英文)Fundamental Study for Welfare Art

研究代表者

山本 和弘 (YAMAMOTO, KAZUHIRO)

栃木県立美術館・その他部局等・その他

研究者番号：30360473

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：厚生芸術の基礎研究は、少子高齢化が進行する日本社会において芸術の社会的有用性を再確認し、人々の生まれながらにして持つ「創造性」を資源として社会において開花させることを目的とする。具体的には「医療」と「芸術」の融合への要請とアール・ブリュット研究の世界的隆盛が同根であることを確認し、「アーティストのサバイバル 第一回実態調査2014」を実施し、アーティストの仕事と社会からの要請がミスマッチしている現状を数量的に明らかにし、その原因を芸術系大学のカリキュラム上の需要に対する過少供給に見出した。厚生芸術研究は少資源国の日本においては、創造的資本論という新たな社会的要請に応えるものとなる。

研究成果の概要(英文)：The fundamental study for Welfare Art is to be ready for a low birth and an aging population society in Japan, as to study 1) relationship between art and medicine, 2) art brut-outsider art 3) survey for artists' survival in Japan 2014. The results of these studies prove the born creativity which we all have is still cold and hard, but the study let them warm and soft to open our born creativity to cultivate our coming society as creative capital. "Survey for artists' survival in Japan 2014" gathered 727 samples. Simple tabulation revealed the gap between demand and supply of artists' labour market comes from the mismatching of demand of art students and supply of art college. The artists are just a sample of future-society in which "every one is an artist" i.e. the creative capital let society fill with creativity of every one.

研究分野：厚生芸術

キーワード：少子高齢社会 芸術経済学 厚生芸術 ソーシャルアーティスト 芸術経済学 医療福祉 地方創生
実践美学

1. 研究開始当初の背景

芸術経済学者ハンス・アビング博士 Dr. Hans Abbing による『芸術という例外的経済 Why are Artists Poor?』 Amsterdam University Press 2002(邦訳：山本和弘訳、グラムブックス、2008年)が明らかにした「芸術神話」は、17世紀の資本主義草創期における芸術のダイナミズムが、19世紀の有閑階級の子弟である「ボヘミアン・アーティストたち」の登場によって、非経済的かつ非商業的なものに変質したことを解明した。この神話内存在である20-21世紀の多くの有望なアーティストたちの潜在能力(=創造性)は、自由の名のもとに社会から遊離したまま「構造的」に浪費される事態として「世界的」に定着されている。

2. 研究の目的

「厚生芸術の基礎的研究」は「資源としての創造性」を浪費する事態を批判し、社会から遊離した芸術が政治経済的課題である「医療福祉・環境・教育」との乗法によって、社会的芸術と「ソーシャル・アーティスト」の活躍する時代の到来を明らかにする。この分析は先行研究における芸術的価値のバブル化批判と共振するものであり、特定層のための芸術から民主的芸術への芸術パラダイムの大転換を示すものである。

創造性がア・プリオリに私たちすべてに内包される資源であることはドイツの彫刻家ヨーゼフ・ボイス Joseph Beuys (1921-86)の仮説であるが、厚生芸術ではその存在証明を「アーティストのサバイバル 第一回実態調査 2014」の実施で統計的に実証する。富裕層や美術館に代表される特定需要層のための制度疲労の議論と同時に昨今アール・ブリュットの研究と実践的活動が世界的に活発になっている状況調査で、「創造性=ア・プリオリの資源」という厚生芸術の課題を傍証する。一方、厚生芸術において医療と芸術との関係を従来のコレクターとしての医師ではなく、医師でもあるアーティストに求めた研究を行ったが、歴史上わずかな例(イサムノグチ、ニコラ・デ・マリア、ヴォルフガング・ライブ、マシュー・バーニー、清水誠一、中ザワヒデキ)を数えるにすぎない。これは**治療芸術 Heil=Kunst**という社会的要請からは**未達の研究課題**として残存しており、その原因を究明する。

3. 研究の方法

「私たちはみなアーティストである」というボイスの仮説に基づく創造的資本論を明晰化するために「アーティストのサバイバル

の実態 2014」を実施した。非生産的なアーティストを再生産する芸術系大学の問題点を本調査から抽出する。自称アーティストから主に**医療福祉・環境・農業・教育セクター**において**社会有用性を発揮**しうる「**ソーシャル・アーティスト**」への**構造転換**を提起する。予備研究として「**創造性=資本**」、「**創造性**」>「**従来芸術**」を証明する**アール・ブリュット研究**、「**アーティスト=ドクター**」調査を並行しておこなう。以上を統合して、市場を恐れないアーティストの覚醒と、教育や**医療、環境・農業**といった**超少子超高齢化社会の日本**という現実と未来に密着した**ソーシャル・アーティスト**を**アートワールドの外部**で**創出**する具体策を美術外部から抽出。**アーティストの労働市場を社会へと拡張**するとともに、**逆方向から社会の創造化**へと波及させる。

4. 研究成果

研究成果は三部からなる。

(1)第一部は「厚生芸術研究」の基本構想を提供したヨーゼフ・ボイスの《コヨーテ》作品3系列の詳細研究から「わたしたちすべてが創造性を資本としてもつこと」を美学・芸術学的に検証した。詳細は専門的かつ特殊となるため本報告書では割愛する。

(2)少子高齢化社会を豊かに乗り切るために「私たちはみな芸術家」という仮説を措定しながら、その端緒として2014年現在、狭義のアーティストの生活実態を統計学的・経済学的方法によって調査した。「アーティストのサバイバル 第一回実態調査 2014」は727という驚異的サンプルを回収した画期的サーベイとなった。この調査結果は世界的に類例をみないものであり、極めて汎用性が高いために、本研究の主要成果として以下に図表を中心に報告する。

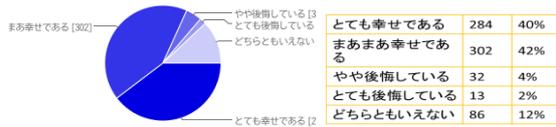
【名称】：アーティストのサバイバル 第一回実態調査 2014

【実施時期】2014年5月-6月

【調査方法】インターネットによる調査票の配布とインターネットによる回収。(調査票は省略)。

【有効回答数】727

Q1. あなたはアーティストになって（幸せですか？）



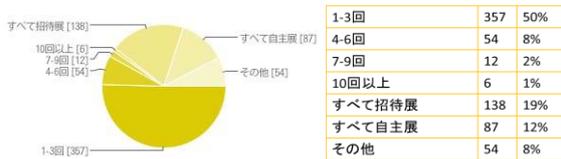
Q2. あなたの作品のジャンルは何ですか（複数回答可3つまで）



Q3. あなたは年に何回くらい展覧会に出品・参加しますか



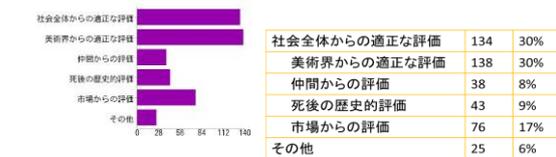
SQ3. その中で招待展は何回ですか



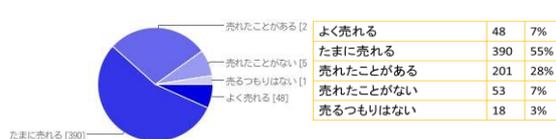
Q4. あなたの作品は社会から評価されていると思いますか



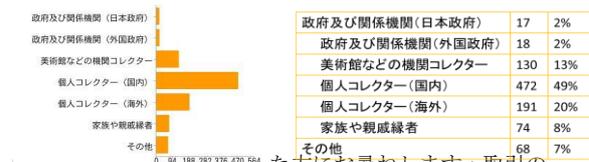
SQ4-c. 「評価されていない」と思う方に：どのような評価が望ましいですか？



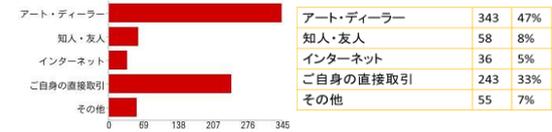
Q5. あなたの作品は売れていますか



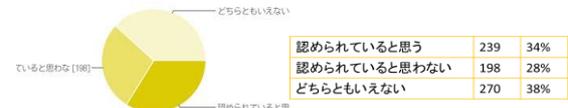
SQ5a. 「売れる」と回答した人に（コレクターの属性を尋ねている）。



SQ5b. 「売れる」と回答した方にお尋ねします：取引の仲介者はいますか？



Q6「あなたは社会からアーティストとして認められていますか」



Q7 アーティストとしてのあなたご自身、あるいはあなたの作品は社会になんらかの便益をもたらしていますか。



Q8.あなたはアーティスト以外の副業（職業）をもっていますか。

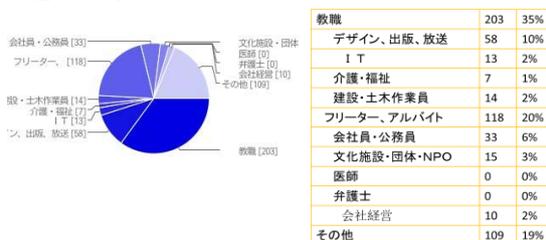


ここで厚生芸術が強調しておきたいことは、「アーティスト専業」が100%になることがアーティストの労働市場の理想形ではない、ということだ。アーティスト専業で生計が成り立つことは、作品が優れていると判断されている状況を証明することにはならない。経済学的に措定する定数としての芸術的価値に加えて、多様な変数がまれに調和したときにのみ、アーティスト専業という労働形態が成立する。その要因の分析は今後の新たな調査を待たなければならないが、より多くの優

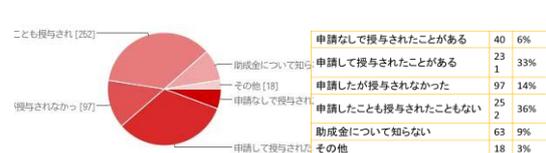
れた作品を制作するアーティストがその数だけエスタブリッシュされた専門アーティストとならない（なれない）ことは、特定のアーティストの作品の市場価値が高騰するWinner-take-All市場である事実が間接的に証明している。もし、マーケットの規模（コレクターの数と資金など）が限られているにも関わらず、より多くのすぐれた作品を制作するアーティストが適正に評価されるならば、一人のアーティスト（の作品）が得る金銭が、それらのアーティストの数でシェアされる流動的な市場となるからだ。もちろん、市場規模が拡大することになれば、この状態は崩れる可能性があるだろう。

また、誰もが「アーティスト専業」を目指す必要はない。すなわち、「副業をもつアーティスト」が常に併存しているという労働市場の多様性を積極的に認めることがアーティストのサバイバルの過酷さを緩和する最大の特効薬となる。「専業アーティスト」の下に「副業をもつアーティスト」が控えているという上下構造、あるいは格差意識の排除が急務である。アートワールドでのみアクティブな専業アーティストと副業によってアートワールドの外部＝社会と深くつながる多様な副業をもつアーティストが同等にみられることが今後重要になる、と厚生芸術は提案する。

SQ8-a. 「はい」と答えた方にお尋ねします。どのような職種ですか。



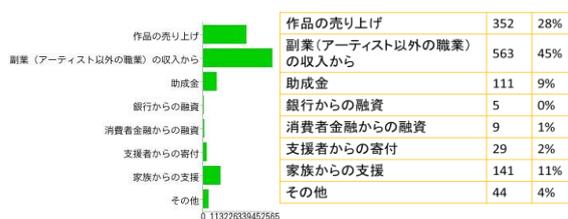
Q9. あなたはアーティストのための助成金を得たことがありますか。



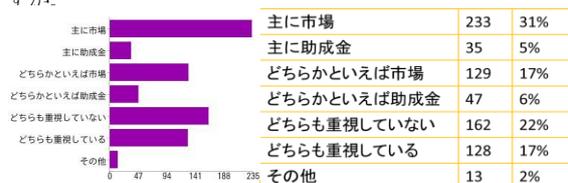
SQ. 9 「助成の主体は以下のどれにあてはまりますか」



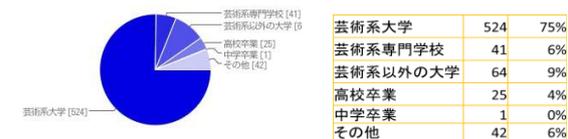
Q10. あなたはどのようにして制作費を調達していますか。



Q11. あなたは市場と助成金のどちらを重視していますか。



Q12. あなたの最終学歴は以下のどれにあてはまりますか。

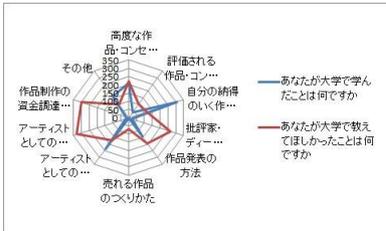
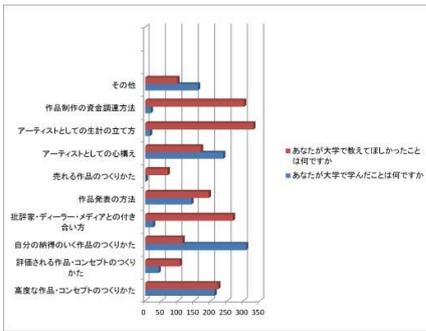


SQ12-b. あなたは大学で主に何を学びましたか。



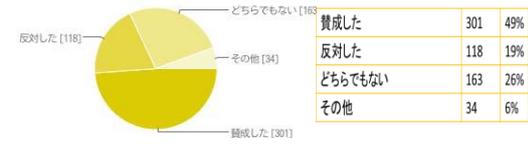
SQ12-c. 大学で教えてほしかったことは何ですか。



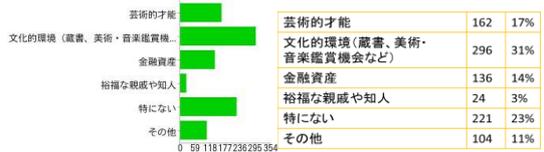


現在の芸術系大学では、自己中心的な方法のみが教授され、アーティストが最も必要としている他者から評価される方法は教授されていない。これは旧来の芸術諸学の中でも美学が解明してきた *für sich Sein* としての芸術作品の性格からすれば当然なのであるが、21世紀の今日においてもなお、あたかも *an-sich-Sein* であるかのような教授がなされていることを示している。もちろん、厚生芸術は現在の芸術系大学の教授法すべてが未達であるなどという見解はもたない。もともと厚生芸術は大学でアーティストが学ぶべきものは、「高度な作品・コンセプトのつくりかた」に代表される質の高い作品のつくりかたと「アーティストとしての生計の立て方」18%、「作品制作の資金調達方法」16%、「批評家、ディーラー、メディアとの付き合い方」13%というサバイバル法の両立が絶対不可欠であると主張してきた。さらに付言するならば、後者のサバイバル方法は前者の作品を制作する能力のあるアーティストであることを前提とする。換言すれば、優れた作品を制作することのできない人にはアーティストのサバイバル法は無用である。しかし、もし優れた作品制作が可能でアーティストがサバイバル術を知らないままに冷酷な社会に放り出されれば、そのアーティストのサバイバルは成り立たない。

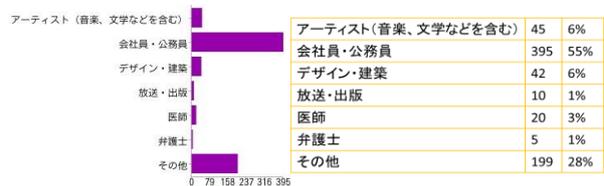
Q13.「あなたが芸術系大学・学校への進学を志したとき、ご両親の反応は・・・」



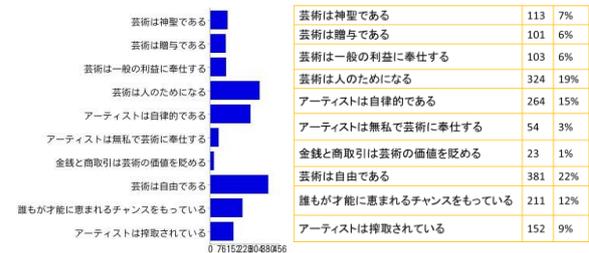
Q14. あなたはアーティストとしてどのような資質や資産などをご両親から受け継ぎましたか。



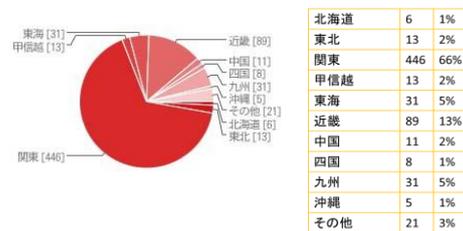
Q15. 「あなたのご両親の職業は」



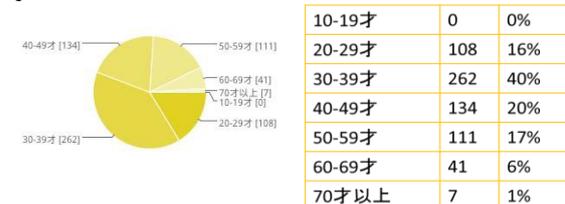
Q16. 以下の問いでは、そう思うものを選んでください（複数回答可）。



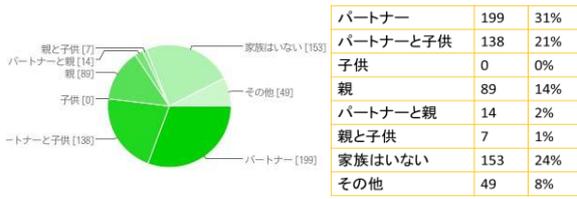
q1.あなたの居住地は



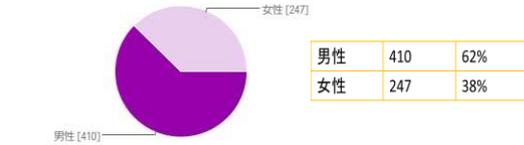
q3.あなたの年齢は



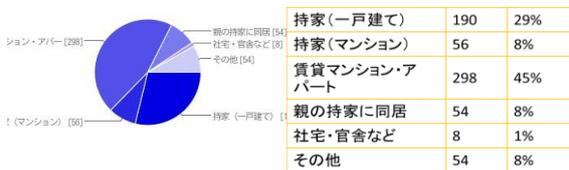
q4.あなたと同居しているご家族は（あなたと・・・）



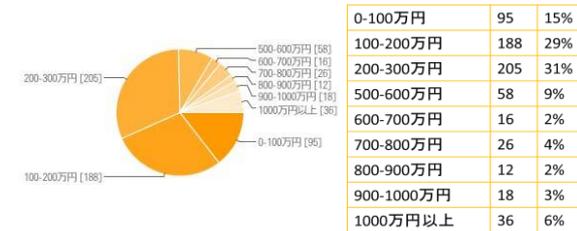
q5.あなたは



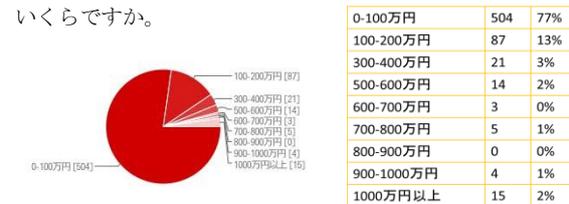
q6.あなたのお住まいのタイプは以下のどれですか



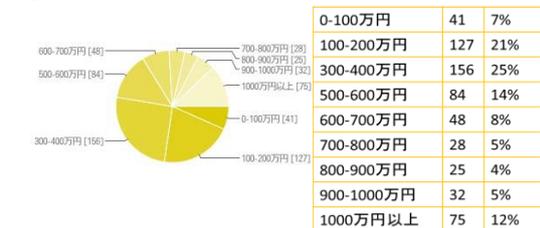
q7.あなたの年収（税込）はいくらですか。



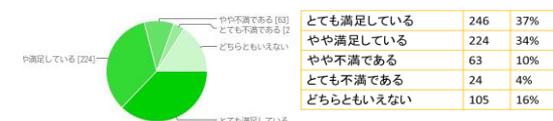
sq7-a. その中でアーティストとしての年収（税込）はいくらですか。



sq7-b.あなたの世帯の年収（税込）はいくらですか。



Q17.あなたはアーティストになって



創造的資本の初動的舞台である芸術系大学

ではサバイバル法は教授されず、資本は硬化したままの状態である。創造性開花のための具体的に政策として提言する。

(3) 第三部は第一部の美学・芸術学的研究と第二部の経済学的研究を受けて、それらの諸問題の解決を哲学的経済学に見出した。すなわちハイデガーの「Gestell（総駆り立て体制）概念」と柄谷行人の「交換様式 D」である。課題解決に向けた第三部は思弁的議論となるため本報告書では割愛する。

5. 主な発表論文等

- 〔雑誌論文〕（計4件）
 - 山本和弘「厚生芸術入門」日本アートマネジメント学会誌、2014、4-15
 - 山本和弘「世界批評としての SIAF2014」札幌国際芸術祭報告書、2014、57
 - 山本和弘「アール・ブリュットについて」アール・ブリュット作品の普及・展示活動に関する調査報告書、2015、66-67
 - 山本和弘「人間と機械とのしなやかな関係について」タムラサトル展カタログ、2014、8-19〔学会発表〕（計5件）
 - 山本和弘「ヨーゼフ・ボイスの原点」カサヤの森現代美術館、2014.10.12
 - 山本和弘「アーティストのサバイバル」geidaiRAM 東京藝術大学、2015.1.21
 - 山本和弘「アーティストのサバイバル第一回実態調査報告」東京都現代美術館、2015.2.21-22
 - 山本和弘「ハンス・プリンツホルン『精神病患者の造形』の基本構造」滋賀県立近代美術館、2015.3.15
 - 山本和弘「アンゼルム・キーファー」東京ドイツ文化センター、2015.3.23
 - 〔図書〕（計2件）
 - 山本和弘「アーティストのサバイバル 第一回実態調査 2014 報告書」2014、科学研究費報告書
 - 山本和弘「タムラサトル展」カタログ、2014、栃木県立美術館
 - 〔産業財産権〕
 - なし
 - 取得状況（計 件）
 - なし
 - 〔その他〕
 - <http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/>
- ## 6. 研究組織
- 研究代表者
 - 山本 和弘（YAMAMOTO, KAZUHIRO）栃木県立美術館 特別研究員
 - 研究者番号：30360473
 - 研究分担者
 - なし
 - 連携研究者
 - なし